第8回　福祉用具専門相談員実力ランキングテスト〔問題用紙〕

福祉用具

（設問数:44　220点満点）

開始時間	14:40	90 分
終了時間	16:10	

第8回　福祉用具専門相談員実力ランキングテスト〔問題用紙〕

福祉用具

（設問数:44　220点満点）

１．ベッド関連

以下の設問ではとくに記述がない場合は，介護用ベッド（特殊寝台）をベッドと表現している．

【設問１】（各１点）

ベッドの JIS の内容に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 圧縮されていない状態のマットレスの上からサイドレールまたはベッド用グリップの一番高い個所までの高さは，200 ㎜以上である．これは横向きに寝た成人男性の胴の中間点の値である．

② 貸与事業者の腰痛予防のために，貸与されるベッドは分解した際に一つの部材が最大15kg 以下でなければならない．

③ 手指の挟込み防止のため，手指の届く範囲の可動部には，フリーホイール構造やリミットスイッチなどの安全手段がない場合，10 ㎜以上 30 ㎜未満の隙間がないよう配慮する．

④ ボトムが水平な状態で二つのサイドレール間の距離は60㎜以下または235㎜以上と規定されているが，これは成人男性の首の最小幅と成人女性のあごから頭の先までの距離を考慮した数値であり，挟み込みによる重大な事故を防止するという意味から設定されている．

⑤ 背ボトムとベッドとの角度は，0 度（水平）から 70 度以上までの間で調整可能であるものとする．

【設問２】（すべて正解で５点）

ベッドの構造に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 「１モーターのベッド」とは，１個のモーターで，背部，脚部の傾斜角度の調整及び床板の高さを無段階に調整できるベッドのことである．
② 背上げ・膝上げ連動タイプのベッドでは，一つのモーターによって背上げと膝上げが連動して駆動するため，背上げだけを駆動させることはできない．
③ ベッドの昇降時，ベッド全体が垂直昇降する機種と，円弧昇降する機種がある．垂直昇降よりも円弧昇降する機種の方が低床にすることができる．
④ ベッド高さは一般的に床からマットレスまでの距離をいう．
⑤ ベッドの膝上げ機構には，1)膝だけが持ち上げられるタイプ，2)下腿部がほぼ床面に平行に持ち上げられるタイプ，3)膝が上がるとともに，足部が床面より下がるタイプなどがある．

【設問３】（各１点）

サイドレール・ベッド用グリップに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 差し込み式サイドレールは利用者の転落や布団の落下防止が目的である．
② 現在使用しているベッドメーカーのサイドレールは，デザインが気に入らない．別のメーカーのサイドレールをレンタルすることにした．
③ 差し込み式サイドレールを，手すりとして使うことを考えたが，強度が心配でなるべく短いタイプのサイドレールを選択しレンタルした．
④ 差し込み式サイドレールの利点の一つとして，ベッド背上げ時に腕を挟み込んだまま背上げをしても，サイドレールが自然に抜けることがあげられる．
⑤ ベッドから立ち上がったあと，部屋の出入り口まで歩くのに何か支えが必要であった．ベッド用グリップとともに掴みやすいよう配慮されたヘッドボードも伝って歩くようにアドバイスした．

【設問４】（すべて正解で５点）

ベッド上での動作に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 片麻痺の人が，側臥位になったり，寝返りをする場合には原則として，健側に動きやすいよう支援する
② 起き上がり動作として，側臥位になり，下方の肘と掌でベッド面を押しながら起き上がる方法がある．このとき，あらかじめ上半身を起き上がる方向とは反対側に位置させておくと，肘と掌を付くスペースが確保され，起き上がりやすくなる．
③ 仰臥位からベッドの背上げ角度を大きくして起き上がってくる場合，背だけを上げると身体が足側に滑っていくことがある．このような場合，側臥位になったのち，一旦ベッドから足を降ろしてベッドの背を上げると身体の足側への滑りは防止され，容易に起き上がれることがある．
④ ベッド端座位から立ち上がる場合には，腰を浅く腰掛け，足が床に着いている状態でベッドを高くして立ち上がると容易に立ち上がれる．ベッドに戻るときもこの状態で戻るように指導する．
⑤ 座位保持が不安定な人では，ベッド端座位を保持するときと立ち上がりを補助するときとでは適切なベッドの高さは異なることがあるため，各動作に合わせて高さ調節することが動作の自立支援の上では大切である．

【設問５】（すべて正解で５点）

ベッドの背上げ機能に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 身体を自分で動かすことができない人に対して，身体が足側に滑りにくいようにベッドの背上げを行う場合，背上げ・膝上げ連動タイプのベッドを選ぶとよい．
② ベッドの背を上げたり，下げたりすると，身体とマットレスの間にずれが生じる．このずれをとるために，身体をマットレス面から一旦離すような，「圧抜き」といった介助をすることが望ましい．
③ ベッドの背上げに伴い身体が足側にずれる現象を軽減できるよう，各メーカーがさまざまな工夫を行っているが，身体の関節軸とベッドの軸が同一位置にないことなどから，これを完全に防止することは困難である．
④ 身体を自分で動かすことができない人に対するベッドの背上げでは，身体が足側に滑りにくいように，まず膝を上げ，ついで背を上げる操作を数回に分け行うが，背を下げる場合も，膝から下げていく．
⑤ ベッド上での背上げ座位をとるには，一般的に利用者の股関節が，ベッドの体幹部ボトムと大腿部ボトムの回転軸位置より数 cm，頭寄りに位置するように寝ている方が体幹部の圧迫が少なくなる．

【設問６】（各１点）

ベッドの使い方に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 背上げした状態からベッドの背を下げる場合には，個人差はあるが，一気に平らにすると，水平よりも下がった感じを受け不快である．したがって，平らにする前に一旦止め，しばらく時間をおいてから下げるなどの対応がある．
② ベッドの機種によっては操作スイッチをサイドレールの内側にかけることを取扱説明書で禁止していないベッドがある．
③ ベッドに寝ている位置が足側にずれていると，背上げしたときに腹部の圧迫がより強くなって，大きな背上げ角度を作れないことがある．
④ ベッドの膝上げを行っている状態で，介助者がベッドの膝上げ部分に腰を下ろして介助することは，ベッドの取扱説明書では禁止されていることが多い．
⑤ ベッドの重量は重いため，畳の部屋にベッドを設置するときベッド脚の下に比較的大きな面積を持った脚座などを敷いて，畳の沈み込みを小さくする工夫が必要である．

【設問７】（各１点）

マットレスに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① ベッドの幅が各メーカーによって異なるため，ベッドと同じメーカーのマットレスの中から選択しなければならない．
② 一般的な寝台のマットレスはコイルスプリングが利用されることが多いが，介護用ベッドであまり利用されないのは，背上げや膝上げに応じたマットレスの柔軟性が足りないことが理由の一つである．
③ ウレタン系のマットレスは，コイルスプリングマットレスと同等の寝心地のよさがあるが，洗濯・消毒が困難なため，介護保険の貸与ではなく，販売対象となっている．
④ ベッドの床ずれ防止用具ではないマットレスはほとんどが厚さ 10cm 以下である．その理由の一つはベッドの低床化に対応するためである．
⑤ 表面と裏面で固さが異なるマットレスがある．これは身体の動きやすさと寝心地を追求していく過程で開発されたマットレスであり，好みに応じて選択するとよい．

【設問８】（各１点）

ベッド付属品であるテーブルに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 端座位で食事をするときにテーブルが欲しい．現在使用しているベッドメーカーとは別なメーカーのテーブルをレンタルすることにした．
② 6 畳間にベッドを導入する際に，食事がしやすいよう門型テーブルを合わせて導入することとなった．テーブルのセッティングのためのスペースを頭側に確保するようにベッドを配置した．
③ コの字型のベッドサイドテーブルは，剛性が高く，テレビなどの重量物を乗せても問題はない．
④ ベッドの両サイドのサイドレールにまたがせて利用するテーブルは，高さを調節することができないので，介護保険ではベッド付属品としての給付は認められていない．
⑤ 立ち上がりや歩行時の支持のために寝室内に手すりが欲しいが，費用がかさむため，コの字型のテーブルのキャスターをロックして手すり代わりに使うこととした．

２．移乗関連

【設問９】（各１点）

介助があれば立ち上がれる人に対する介助方法等に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 端座位では少し浅めに座ってもらい，踵を引いた状態からの立ち上がりを介助する．
② 端座位から立ち上がらせる時に，介助者が力を出しやすいように，本人の足の間に介助者の足を入れ，脇の下に手を入れて身体を密着させ，真上に持ち上げる．
③ ベッドの昇降機能を利用し，ベッドの端座位で利用者の踵が浮くか，浮かないか程度に調整する．
④ ベッド用グリップを利用し，グリップの前方を握らせて引くようにしながら立ち上がってもらう．
⑤ 床がフローリングで踏ん張りにくい場合は，上履きを履くなど，足下に滑り止めの工夫を行う．

【設問 10】（すべて正解で 5 点）

トランスファーボードを用いたベッド・車いす間の座位移乗に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 後輪が大きな自走用車いすはアームサポートが着脱できたとしても，後輪が邪魔になるためトランスファーボードは利用できない．
② トランスファーボードは介助者用の福祉用具であり，利用者が自分で移乗するといった自立目的での使用はできない．
③ ベッドから車いすへ移乗するときは，ベッドの上面を車いす座面より 2～5ｃｍ程度高くするほうが，ベッドと車いす座面が同じ高さよりも移乗しやすい．
④ トランスファーボードを差し込む際に，両坐骨がトランスファーボードの上に乗るよう，深く差し込むことが大切である．
⑤ 介助方法のコツとして，骨盤を前傾させておき，利用者の重心を進行方向に傾けながら移動を始め，後半には，この重心を逆方向にかけ直すと，車いす座面に深く着座できる．

【設問 11】（すべて正解で 5 点）

リフトに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 一般的に日本家屋において床が平らであるならば，床走行式リフトを利用して，ベッドから車いすへ移乗し，そのままトイレの便器まで移動できると考えて良い．
② ハンガーのサイズは肩幅と同じだと吊り上げ姿勢が良いという考えのもと，異なるハンガーサイズを揃えている機種もある．
③ ベッド固定型リフトは，いずれの機種もハンガーが垂直に昇降すると共に，床から吊り上げられる程度のストロークを持っている．
④ 浴室に設置するタイプのリフトは，在来工法の浴室には設置できるが，ユニットバスには設置できない．
⑤ レール走行式リフトには線レール式と面レール式がある．

【設問 12】（各 1 点）

リフトの使い方・機能等に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 車いすに着座させる際に，車いすをキャスタ上げし，ブレーキを掛けて着座させる方法がある．
② レール走行式でも，ベッド固定型リフトでも，ハンガーの移動エリアを把握し，この中で移乗することを考える．
③ 脱衣所と浴室との間の天井に垂れ下がり壁があり，これを壊さなければリフトで浴室に移動できないと考え，リフトの利用を断念するようアドバイスした．
④ 基本的に，車いすからリフトで吊り上げるときには，車いすのブレーキは掛けない方がよい．
⑤ 床走行式リフトで人を吊り上げたときの重心は，リフトのハンドル部分にあるため，ここを中心に動かすと揺れが少なくなると考える．

【設問 13】（各 1 点）

リフトの吊り具に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① トイレ用吊り具は，臀部が大きくあいているので，股関節周囲の適合が悪ければ，臀部が落ち込みすぎて利用できないことがある．
② シャワーキャリーで，座面と台車部分を切り離すことができ，座面だけを吊り上げて浴槽の中に入れられるタイプがある．脚分離型のスリングシートとは異なり，合成フレームでたわみにくいため，吊り上げ時に股関節が過度に屈曲されることはなく，関節リウマチなどで痛みを避ける目的で使うことがある．
③ 人を吊り上げたとき，吊り具の背部の中心ラインと利用者の脊椎（背の中心）ラインが合っていないと，吊り上げて車いすに着座したとき，左右前後に傾いてしまう場合がある．
④ 多くの吊り具が吊り上げたときの姿勢を調節できる．体幹側の吊り具の長さを長くし脚側の長さを短くすると，吊り上げたときの姿勢は起きてくる．
⑤ シート型の吊り具は臥位での着脱が条件となるため，車いす上での着脱は困難で，敷き込んだ状態のまま車いすの利用となることが多い．

３．車いす関連

【設問 14】（各 1 点）

ＪＩＳによる手動車いすの分類表記に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 手動車いすは，自走用と介助用に大きく分かれる．自走用は，標準形，室内形，座位変換形，スポーツ形，パワーアシスト形，特殊形．介助用は，標準形，室内形，座位変換形，浴用形，パワーアシスト形，特殊形に分類される．
② 自走用標準形車いすは，後輪が 18 インチ以上のものである．
③ 介助用標準形車いすは，後輪が 8 インチ以上 18 インチ未満のものである．
④ 自走用スポーツ形はスポーツ専用の車いすで，レース用，テニス用，バスケットボール用だけでなく，スラローム用やレジャー用までも含まれている．
⑤ 介助用浴用形車いすは，浴室内での使用を目的としたもので，さびない工夫などを施したものとされる．

【設問 15】（すべて正解で 5 点）

車いすの構成名称に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① ティッピングレバーとは，介助者が車いすの前輪上げをするときに踏む部分である．
② リムとは，タイヤを組み付け，スポークを介してハブに接合する部分である．
③ ハブ軸とは，ハブの中心を貫通している軸のことで，いわゆる車軸のことである．
④ 転倒防止装置とは，車いすが転倒するのを防止するためにストッパーの役目をする装置で，道路交通法により全ての車いすに装備義務がある．
⑤ 足部や下腿の支持装置をフット・レッグサポートとよぶ．

【設問 16】（各 1 点）

車いすの構造に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① キャンバ角は，前額面における駆動輪または主輪の水平線に対する角度である．
② 左右一対の車輪の場合，一般的なキャンバ角は，－5 度～0 度であり，上が狭い状態がプラス，その反対がマイナスで表現される．
③ マイナスよりもプラスのキャンバ角は，明らかに走行性能を落とすので注意する．
④ トウ角は，水平面における駆動輪または主輪の進行方向に対する角度であり，0 度以外は，走行性能に悪影響があるため，注意が必要である．
⑤ 左右一対の車輪の場合，前方が狭い状態がマイナスでトウ・アウトともいう．その反対がプラスで，トウ・インとも表現される．

【設問 17】（各 1 点）

車いすの適合に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 四肢麻痺で車いすが自操できず介助で移動している 90 歳の女性に車いすの適合・調整を行った．円背に対応するためシート角度を少し大きめにし，バックシートの張り調整とともに，バックサポート角度をこの車いす最大の約 100 度に設定した．
② 下腿長 420 ㎜の男性が，自走用の標準型車いすを導入し，屋外移動を予定している．前座高 420 ㎜なので厚さ 50 ㎜のウレタンクッションを勧めた．
③ 股関節の屈曲制限があり，70° 程度しか曲がらないという．自走用のリクライニング車いすを導入した．
④ 両手こぎをする女性の骨盤の幅を衣類の上から計測したら，350㎜ だった．屋内使用するというので座幅 375㎜ の車いすを選んだ．
⑤ 片手片足で車いすを操作するので，前座高を足がしっかり着地する高さにした上で，前座高と後座高の差を一般的な 20～30㎜ より若干小さく調節した．

【設問 18】（すべて正解で 5 点）

車いすのクッションに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 仙骨部に褥瘡がある場合には，円座が車いすクッションとして最適である．
② 片麻痺で，通常のクッションに座ると骨盤の麻痺側が低くなり，体幹が傾いてしまうような場合には，臀部の厚みを左右で調整できるクッションを利用し，骨盤を平行にすることによって体幹の傾きを防止できる場合がある．
③ エアセルタイプのクッションは，ウレタン製に較べて，座圧を分散する能力に優れていると共に，座位を安定させる能力にも優れている．
④ 防水布でカバーされているクッションは蒸れやすいので褥瘡のリスクが高い人には不向きである．
⑤ 低反発ウレタンだけのクッションは弾性要素が不足することが多く，底付きしがちである．弾性要素が大きい一般的なウレタンと併せたタイプのクッションを使用する方がよい．

【設問 19】（各 1 点）

座位変換形車いす（姿勢調節機能付きの車いす）に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① ティルト，リクライニング，レッグエレベーション機能を有する車いすで，起きている姿勢から寝かせた姿勢に移る場合には，まず足を上げて（レッグエレベーション）身体が前に滑らないようにし，それから座面を傾け（ティルト），最後にバックサポートを倒す（リクライニング）．

② リクライニング機能を利用して，バックサポートを起こすと，前方に座骨が滑り，座位姿勢が崩れる場合は，ティルト機能が有効である．

③ リフトによって姿勢調節機能付き車いすに移乗するときは，あらかじめシート角度，バックサポート角度は本人が座位をとったときの最適な角度に設定しておく．

④ 姿勢が調節できる座位変換形車いすを利用するような人は，座位移乗の可能性はなく，持ち上げるか強引な立位をとらせて移乗することになるから，原則リフトを利用すべきである．

⑤ 座位変換形車いすで，座面角度やバックサポート角度，ヘッドサポート位置や角度が随意に調節できるのは，その日の状態に合わせてこれらを調節し，可能な限り同じ姿勢を長時間維持させるためである．

【設問 20】（すべて正解で 5 点）

車いすの駆動に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 両足こぎの場合には両足のつま先が接地し，踵は接地しない高さに調節する．

② 両手こぎの場合，後輪径が 20 インチの車いすと 24 インチの車いすでは前者の方が小さな力で駆動できる．

③ 自操（自走）・介助にかかわらず，車いすを駆動しやすくする要因のひとつにフレームの剛性がある．剛性は乗り心地とも関連し，剛性が低い方が駆動しやすく，乗り心地もよい．

④ 片手片足こぎをする場合には駆動側のレッグサポートをはずしてこぐが，キャスタが足こぎのじゃまになることが多い．これを防ぐために，キャスタを外側に配置して足の可動領域を広げることがあるが，キャスタを外側に配置するとキャスタにかかる重量が減少し，キャスタの方向転換がしやすくなるという利点も生じる．

⑤ 空気入りタイヤとソリッドタイヤを比較すると，車輪幅が同じ場合，走行路面が畳のような場合は空気入りタイヤの方が，フローリングされているような床の場合はソリッドタイヤの方が軽く動く．

【設問 21】（各 1 点）

電動車いすのＪＩＳに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 電動車いすは，主としてその外観および用途によって，自操用は標準形，ハンドル形，座位変換形，室内形，簡易形，特殊形，介助用は，標準形，簡易形，特殊形に分類される．

② 自操用標準形は，前 2 輪，後 2 輪の四輪で構成したもので，駆動方式は限定しない．身体支持部のうち，シート，バックサポートおよびフット・レッグサポートは，任意に角度が変えられない機構で，主に操作方式はジョイスティック方式とする．なお，パワーステアリング機構を装備したものも含む．

③ 求められる登坂性能として，自操用標準形は，10 度の斜面での直進登坂や発進ができなければならないが，自操用簡易形は 8 度で試験を行う．

④ 求められる降坂性能として，自操用標準形は 10 度の斜面において最高速度（実測値）の 115%以内でなければならない．

⑤ 段差乗越は，自操用標準形は前進または後退によって，助走なしで 25ｍｍ，助走ありで 40ｍｍの段差乗越ができなければならない．ただし，自操用簡易形は助走無しで 10ｍｍだけで行う．

【設問 22】（各 1 点）

自操用電動車いすに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 電動車いすの最高速度は，低速用で 4．5㎞／ｈ以下，中速用で 6．0㎞／ｈ以下である．

② 簡易形電動車いすの多くは介助者用のコントローラを付加することによって，介助用電動車いすとして使用できる．介助用電動車いすは屋外において，上り坂で有効であることはもちろんだが，急な下り坂を走行するときにも効果を発揮する．

③ 最小回転半径とは，電動車いすを停止せず 360 度旋回走行させたとき，電動車いすの最も外側の軌跡が描く最も小さな半径を記入する．

④ 電動車いすの全幅は，使用時における電動車いすの左右外側の最大寸法である．

⑤ 電動車いすは，道路交通法上は自転車と同様，軽車両としての走行が義務づけられている．

４．床ずれ防止関連

【設問 23】（各 1 点）

褥瘡の原因に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 褥瘡の原因には圧迫（圧力）とともに，「ずれ力」があるが，圧力は比較的簡易に計測できるが，「ずれ力」の計測は難しい．
② 身体への接触圧力を小さくすれば褥瘡の予防になる．接触圧力を小さくするためには接触面積を小さくすることと，接触面に加わる力を小さくすることの二つの方法がある．
③ 人の毛細血管内圧は 48ｍmHg で，これ以上の圧が身体の同じ部分に集中し血液の流れが妨げられることが褥瘡の一つの要因である．
④ 皮膚は化学的な浸食に対しても影響を受けるため，便失禁の状態が褥瘡を作る一つの要因となる．
⑤ 皮膚への圧力は，圧縮応力，引っ張り応力，せん断応力などになる．これらの圧力だけではなく，その持続時間も褥瘡対策において配慮すべき要因である．

【設問 24】（各 1 点）

エアマットに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① エアマットの空気圧は体重に合わせて調節するが，骨突出がある場合など褥瘡のリスクが高い場合には空気圧を高めに設定する．
② ベッドの背上げ座位における臀部の底付きを防止するため，この部分の圧を高くする機能を持ったエアマットがある．
③ エアマット上では身体が沈み込んで身体を動かしにくくなる．このため，機能訓練などエアマット上で身体を動かす時に対応できるように，空気圧を一時的に高める機能を持ったエアマットがある．
④ エアマットの厚さはオーバーレイとして使用する薄いものから，リプレイスメントとして使用する厚いものまであるが，一般的に褥瘡のリスクが高いほど厚いものを選択する．
⑤ リプレイスメントタイプのエアマットは，マットレス自体を置き換えることが原則である．

【設問 25】（すべて正解で 5 点）

褥瘡とマットレスとの関係に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 高齢者が風邪をきっかけに廃用症候を生じた．風邪は治り 1 週間経過したが，自分でトイレに行く以外は一日中ベッド上で過ごしている．褥瘡のリスクが高いため，エアマットを導入して様子を見るべきである．
② ベッド上で臥位のまま横移動ができるのに，肩甲骨部に褥瘡ができたという．ベッドの背上げ・背下げ時に圧抜きの介助をするようアドバイスした．
③ 床ずれ防止用具としてのウレタン製のマットレスは，圧の分散能力は高いが，エアマットに較べて除圧効果は低い．
④ マットレスの選択には，危険因子を考えた評価があるが，ＯＨスケールもその一つである．ＯＨスケールが７～10 点の人に静止型マットレスを導入した．
⑤ 寝ていてむれが気になるという．褥瘡予防のために，エアマットよりもウレタン系の静止型のマットレスを勧めた．

５．入浴関連

【設問 26】（各 1 点）

シャワー用椅子に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① シャワー用椅子を浴槽に座って入るための移乗台として使う場合には，座面が水平で，脚部の基底面が，座面より大きいものより，あまり変わらないものを選ぶと移乗しやすい．
② 座面にＵ字形やＯ字形の穴が空いたものがある．これらの座面は陰部を洗浄しやすくする場合もあるが，座位バランスを崩しやすい．
③ 浴室の洗い場は水勾配がついているため，シャワー用椅子の脚部の長さを変え，座面が完全に水平になる場合にのみ導入を考える．
④ 折りたたみできるシャワー用椅子は，高さ調整ができないのが欠点である．
⑤ 肘掛けは洗体の時などに邪魔になることがある．背もたれや肘掛けの有無は必要に応じて選択することが大切である．

【設問 27】（すべて正解で 5 点）

シャワーキャリーに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい.

① シャワーキャリーは，入浴用車いすとして，介護保険では車いすと同様レンタル用品である.
② 一般的にシャワーキャリーは車いすと比較して回転性がよいので，廊下などの通路がクランクの場合でも通過できる可能性がある.
③ 入浴後にシャワーキャリーで浴室からベッドに移動して着替える場合は，浴室から出る際に，身体と一緒にシャワーキャリーを拭くと水の垂れが少なくて良い.
④ シャワーキャリーで座面が布でできており，少したるんでいるタイプがある．このような座面は臀部がサポートされ，体幹バランスが悪い人が安定して座れることがある.
⑤ シャワーキャリーの車輪には固定輪とキャスター輪があり，車輪径も機種により異なる．４輪ともキャスター輪のシャワーキャリーは小回りができ，真横にも動けるが，直進性に劣ると共に，10㎜ 程度の小さな段差を越えるのにも苦労する.

【設問 28】（すべて正解で 5 点）

浴槽用手すりに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい.

① 浴槽に固定する手すりは主として座位で浴槽をまたぐときに使いやすい.
② 浴槽に固定する手すりは，浴槽内において身体が浮かないように姿勢を保つためにも使用できる.
③ 浴槽に固定する手すりは種類が豊富で，ほとんどの機種は浴槽の形状には制約されずに設置できる.
④ 浴槽に固定する手すりは福祉用具専門相談員が一旦取り付けると，介護者が外すことができない.
⑤ 浴槽に固定する手すりをつけると浴槽のふたができなくなる．このため，壁に固定する手すりを選択した.

【設問 29】（各 1 点）

浴室の環境整備および福祉用具に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 「すのこ」で洗い場と脱衣室との 10cm 程度の段差を解消する場合は，浴槽に入りにくくならないか確認することが必要である．
② 浴槽から立ち上がる時に，浴槽底に着いた臀部を持ち上げる動作が負担であれば，浴槽内いすを導入すると，立ち上がるまでの動作が容易になる．
③ 浴槽に立って入る（立ちまたぎ）よりも，座って浴槽をまたぐ（座りまたぎ）ほうが下肢に負担が少ない．入浴台を用いて浴槽の縁に座ってまたぐ場合は，身体の後方に蛇口など邪魔なものがないことが使用条件の一つである．
④ 浴槽内昇降装置は重く，一旦取り付けると取り外せないものなので，家族も昇降装置を用いて入浴することが求められる．
⑤ 吸盤のない滑り止めマットは，浴槽内ではなく洗い場に置いて使うことが使用条件である．

６．排泄関連

【設問 30】（すべて正解で 5 点）

ポータブルトイレに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 樹脂製の安価なポータブルトイレは軽量で運びやすいが，移乗時に不安定になることがある．このためベッドサイドで利用するポータブルトイレを選択する場合は，安定性の良いものを選択することが必要である．
② 洗浄機能のついたポータブルトイレは，介護保険では認められない．
③ ポータブルトイレをベッドサイドに配置して，座位移乗するときは，両側のアームレストが長いものが適している．
④ 後脚の後ろにキャスターがついているポータブルトイレは，運搬の容易さを考慮したものであり，運搬するときはアームレストの前よりを持ち上げて移動させる．このため，アームレストは長い方が運搬させやすい．
⑤ ポータブルトイレの脚部の基底面積が四方に広ければ広いほど安定しているが，ポータブルトイレの脚部が立ち座り等の邪魔にならないようなものを選択する．

【設問 31】（各 1 点）

トイレの便器に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 股関節に屈曲制限があり，便座を高くしたい．便座の上に乗せる補高便座が工事も必要なく簡便な方法である．便器に装備されている洗浄機能もそのまま使えると考えて良い．
② 便座への立ち座りのための昇降便座には，垂直昇降と円弧昇降があるが，ほとんどの場合，注文時にどちらのタイプにするのかを決めておかなければならない．
③ 昇降便座には便器に固定するタイプと床に固定するタイプがある．介護保険では便器に固定するタイプは給付対象とならない．
④ トイレ内で使う手すりは，排泄用の福祉用具であり，介護保険では購入対象である．
⑤ 洋式便器に座って排便するには，股関節を屈曲させた方が，便が出やすくなる．これは，大腸肛門角が直線方向に近づくことが要因の一つである．

【設問 32】（各 1 点）

排泄用品に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 尿器（しびん）は男性用と女性用とに分かれている．
② 女性用の尿器は密着性に欠け，腹圧が掛かりにくい高齢者では尿が臀部を垂れてしまうこともあり，使いにくい．
③ おむつやパッドを利用するときには，尿量を計測し，おむつやパッドに表示されている吸収量と同じ尿量のものを選択する．
④ おむつ式でない採尿器に設置されたセンサーにより尿を自動検知し，ポンプで尿を吸引するタイプの集尿器がある．吸引能力は高く，逆流しないため，採尿器が下を向いても利用できる．
⑤ ティルト・リクライニング機能のない車いす上では，男性は尿器を利用することはできないため，必ずベッドに移らなければならない．

７．歩行補助用具関連

【設問 33】（各 1 点）

杖に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 骨折の治療の経過のなかで松葉杖が 2 本から 1 本の利用となった．ギブスを巻いた側に松葉杖を付くようアドバイスした．
② Ｔ字杖，ロフストランドクラッチ，プラットホームクラッチ，多脚杖の握り高は，床面から大転子までの高さである．
③ 円背傾向の強い高齢者に多点杖を導入することになった．この場合，握りの高さを大転子の位置よりも高く設定すると，円背予防としても有効である．
④ Ｔ字杖を使うことによる下肢の免荷は，通常 60%程度である．
⑤ 脳卒中片麻痺では，麻痺側の支持不足を補うなどの目的でＴ字杖を利用する．Ｔ字杖を用いて歩行する時に，麻痺側の支持が不十分な場合は，健側の足位置は麻痺足よりも前方に位置する．支持力が向上してくると，健側の足位置は麻痺足よりも後方に位置するようになる．

【設問 34】　（すべて正解で 5 点）

歩行器に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 歩行器はＴ字杖や多点杖よりも支持基底面が広く，脳卒中片麻痺の人の初期の歩行練習にもよく利用される．
② 歩行器には，持ち上げて前へ振り出す固定型歩行器と，左右のフレームを交互に前に出す交互型歩行器があるが，交互型歩行器の方が，歩き方を学習しやすい．
③ 固定型歩行器には，脚の下に小さな車輪をつけて，持ち上げなくとも滑らせて移動させるタイプがあるが，この車輪は体重をかけると移動してしまう．
④ 固定型歩行器は持ち上げて移動させるので，屋内の段差解消は必要ないという利点がある．
⑤ 歩行器の支持面積内に重心があると姿勢が安定するため，歩行器の前方フレームを掴んで歩く方法が，最も姿勢が安定し歩きやすいと言える．

【設問 35】（各 1 点）

歩行車に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 歩行車には，フレームに前腕をのせて歩行するタイプと，肘を伸ばして取っ手をつかんで歩行するタイプがある．前者は主として訓練の過程や施設内で使われ，一般家庭では使いにくいことが多い．
② 歩行器では，利用者の重心を歩行器の基底面内において歩行できるが，歩行車では重心を基底面内におくことができない．
③ 椅子付き歩行車は，速度を自転車のように自在に調整できるブレーキがあるのに対して，シルバーカーではオンオフ的なブレーキが多い．
④ 歩行車の取っ手の高さが適切な高さより低いと，身体をフレーム枠内に入れられず，前傾姿勢になることがある．
⑤ 車輪に抵抗を加えて制動を調整できるタイプの歩行車は，パーキンソン病で前方突進といった現象が見られる人にも有効な場合がある

８．その他

【設問 36】（すべて正解で 5 点）

福祉用具サービス計画に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 福祉用具貸与事業者及び特定福祉用具販売事業者は，利用者ごとに福祉用具サービス計画を作成することが，事業運営の基準（指定基準）により義務付けられている．
② 一つの事業所が貸与と販売を同時に行なう場合は，福祉用具サービス計画の作成は貸与に関する福祉用具のみでよい．
③ 福祉用具専門相談員は，福祉用具サービス計画を変更する場合は，その内容について利用者又はその家族に対して説明し，利用者の同意を得なければならない．
④ 福祉用具サービス計画は，既に居宅サービス計画が作成されている場合は，その計画の内容に沿って作成しなければならない．
⑤ 介護予防福祉用具販売では，介護予防訪問介護等の他の介護保険サービスを利用していない，いわゆる単品サービスの場合は，例外的に福祉用具サービス計画を作成しなくてもよい．

【設問 37】（各 1 点）

介護保険における福祉用具の給付対象種目に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」による補装具の品目である車いす・歩行器・歩行補助つえについては，要介護者である障害者は，介護保険制度が優先して給付される．
② 要支援であっても医師の意見書があればケアマネジメントのプロセスを経なくとも特殊寝台が給付できる．
③ 自動排泄処理装置の専用パッドおよび洗浄液など，排泄の都度消費するものは，介護保険の特定福祉用具及び特定介護予防福祉用具販売の種目である．
④ 2000 年の介護保険施行以降，福祉用具給付対象種目は変化していない．
⑤ 福祉用具貸与の自己負担は 1 割が原則であるが，一部の保険者では 2 割負担のところがある．

【設問 38】（すべて正解で 5 点）

介護保険制度における福祉用具において，要介護度 1 について，その状態像から利用が想定しにくいとされている福祉用具に○，想定しにくいとされていない福祉用具に×を記入せよ．

① 普通型電動車いす
② 特殊寝台付属品
③ ロフストランド・クラッチ
④ 体位変換器
⑤ 自動排泄処理装置

【設問 39】（各 1 点）

福祉用具に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい.

① 消費生活用製品安全法及び消費者安全法などの規定に基づき，消費者庁は，福祉用具においても重大事故情報の公表を行っている.

② 重大事故情報により顕在化した特殊寝台でのサイドレールや手すり等との隙間への身体の挟まり事故の防止策等のため，H21 年に在宅用電動介護用ベッド，病院用ベッドの日本工業規格（ＪＩＳ）が改定された.

③ シルバーカーやショッピングカートは介護保険の給付対象ではないが，一般財団法人製品安全協会の認証であるＳＧマーク制度の認定対象である.

④ 介護保険の貸与種目である「車いす」は，日本工業規格（ＪＩＳ）で認証されたもののみが介護保険の給付対象となっている.

⑤ ＩＳＯ（国際標準化機構）では，ＩＳＯ９９９９「福祉用具の分類と用語」を制定している．これには，医療用具や義肢装具は含まれていないが，今後，含めるかについて大きな論点となっている.

【設問 40】（各 1 点）

福祉用具を取り巻く制度・政策等に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい.

① 福祉用具専門職の職能団体として平成 19 年に設立された福祉用具専門相談員協会は会員や関係職種に対する研修事業，国に対する政策提言等を行っている.

② 平成 24 年 6 月に閣議決定された日本再興戦略（JAPAN is BACK）では，ロボット介護機器開発 5 ヵ年計画の実施を今年度より開始するとされている.

③ 障害者基本法に基づく「障害者週間」は，毎年 12 月 3 日から 12 月 9 日までの 1 週間である.

④ H25 年 6 月に改定された「職場における腰痛予防対策指針」（厚生労働省）では，介護・看護作業において，腰痛等のリスクを回避するために福祉用具（機器・道具）を使用することが奨励されている.

⑤ 公益財団法人共用品推進機構では，福祉用具の臨床的評価を行い，適合した福祉用具対して「福祉用具臨床的評価認証マーク」を付与している.

【設問 41】（各 1 点）

食事・更衣・排せつに関する補助具に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 片麻痺では食事のときに食器を固定するために滑り止めマットや，食物がすくいやすいように縁高な皿を用いる．
② 先端部分をボタン穴から差し込み，ボタンに引っ掛けて付け外しを行うボタンエイドは，先端部分の形状から使用できる大きさに制限がある．
③ 台付爪切りは，片麻痺の健側上肢の爪を切るときや，関節リウマチで指に力が入りにくいときに用いる．
④ ポータブルスプリングバランサーや BFO は，上肢を支持する補助具で，関節リウマチの更衣に用いる．
⑤ 片手で切れるトイレットペーパーホルダーは障害のあるなしに関らず使用できるユニバーサルデザイン品である．

【設問 42】（各 1 点）

手すりに関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① 浴槽縁を挟んで固定する浴槽用手すりは，体重を大きくかけると手すりがずれたり外れたりすることがあるため，浴槽を立ってまたぐときに体重を少し支える程度のバランスの保持に用いることが望ましい．
② 天井と床に突っ張らして固定する手すりは，設置するときに天井の強度に注意して設置する．
③ 床に置くだけの据え置きタイプの手すりは，取り付け工事により壁に設置する手すりよりも取り付け場所の自由度が高いが，利用者の転倒に注意して利用しやすいように設置しなければならない．
④ ベッドに取り付ける差し込み式のサイドレールは，起き上がりや立ち上がり時に利用することを想定されて製造されており，かつ安価なため，予算が足りないときはベッド用手すりの変わりに活用する．
⑤ 介護保険制度の住宅改修としてトイレでの立ち座りのために手すりを設置した場合，同じ立ち座りを容易にするために介護保険制度の手すりを貸与（レンタル）することはできない．

【設問 43】　（すべて正解で 5 点）

次の住宅改修のうち，介護保険が利用できるものに○，利用できないものに×を記入せよ．

① 開き戸を自動ドアにした場合の動力部分の設置
② 集合住宅の共用部分の階段への手すりの設置
③ 和式便器から洋式便器に変更する際の水洗化のための給排水工事
④ 昇降機，リフト，段差解消機等動力により段差を解消する機器の設置工事
⑤ 浴室，脱衣場の床材の滑りにくいものへの変更

【設問 44】（各 1 点）

コニュニケーションに関する補助具に関する次の①～⑤の記述について，正しいものは○，間違っているものは×をそれぞれ選びなさい．

① もしもしフォンは，チューブ状になった一方の先端を口に，もう一方を受け手の耳に当てて使用するもので，話し手の声量が小さい場合や，受け手の聞こえが低下している場合に適している．
② 50 音などが書かれた透明なアクリル板で作成された文字盤は，認知症や高次脳機能障害により発語が困難な場合に適している．
③ 操作スイッチで文字を選択して文章作成を行う重度障害者用意思伝達装置は，障害者総合支援法での補装具費支給制度の対象種目である．
④ 伝音難聴では，音が聞こえにくいだけでなく，音のゆがみが加わるため補聴器で音を大きくしても言葉がはっきり聞き取れない場合が多い．
⑤ 失語症による読むことの障害は，一般に仮名よりも漢字読みの能力が低下するため，キーボード型のコミュニケーション機器が適している．